



医療法人楽生会らくらくネット

竹原市の現状(平成24年3月現在)

人口	28,667人	
65歳以上人口	9,487人	
独居高齢人口	2,655人	
世帯数	11,852世帯	
高齢者世帯	4,616世帯	38%
高齢者単身世帯	1,569人	13%
高齢化率	33.1%	県平均24.4%
後期高齢化率	17.2%	県平均12.4%

事業実施主体

名称:	医療法人楽生会馬場病院
病床数:	80床(一般32床、療養48床)
備考:	在宅支援病院 介護保険事業所 (居宅、訪問看護、訪問介護、 通所介護、通所リハ、短期入所、 居宅療養管理指導)

タスク①他職種連携の課題に対する解決策の抽出

◇多職種連携勉強会開催による多職種交流と相互理解の促進を行う。

9月 「竹原市の在宅医療の現状について」 グループワーク 参加者147名	竹原地区医師会会長	浅野稔先生
10月 「高齢者総合的機能評価について」 グループワーク 参加者104名	馬場病院院長	馬場広先生
11月 「緩和ケア事例検討会」 パネルディスカッション 参加者134名	楽生会居宅支援事業所	山中知子ケアマネ
12月 「お薬手帳の有効利用について」 パネルディスカッション 参加者97名	南海診療所	大木恵先生
1月 「認知症ケアについて」 パネルディスカッション 参加者163名	馬場病院	馬場麻好先生
3月 「訪問歯科診療について」 グループワーク予定 参加者101名	ヨシオカ歯科医院	吉岡英人先生

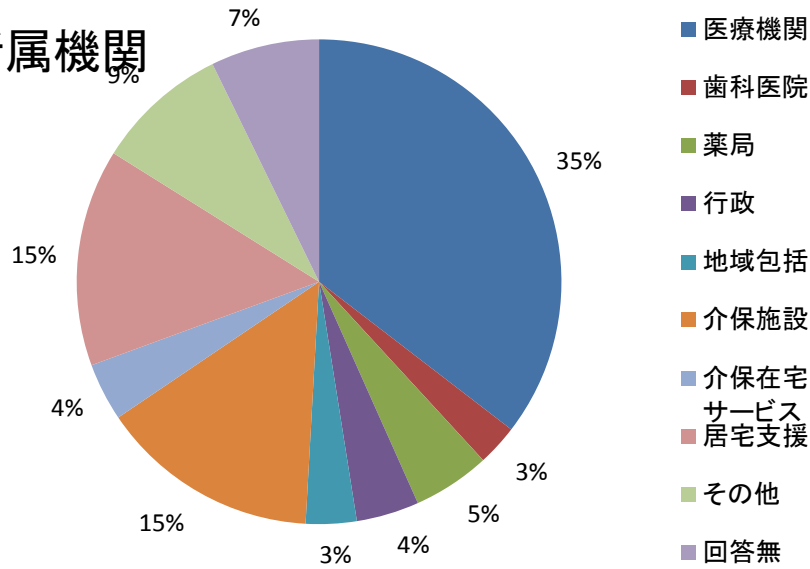
◇地域ケア会議参加し、地域の課題の抽出を行う。

◇介護支援専門員連絡協議会参加し、地域の課題の創出を行う。

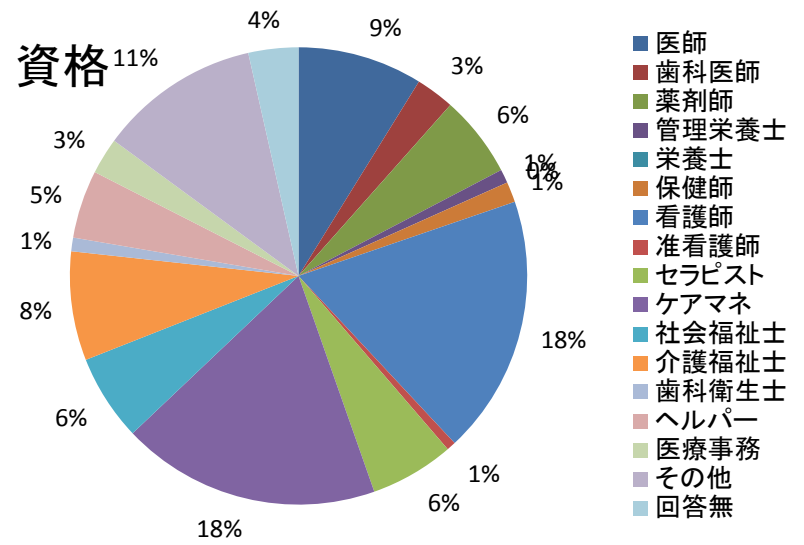
◇大きな課題としては、①地域や各機関の相談窓口がわからない②地域の社会資源がわからない③同職種間の会合等はあるが、他職種との交流する機会に乏しく、地域にどんな職種でどんな人が働いているかわからないといった課題があがる。

第1回～第5回多職種連携勉強会アンケート結果

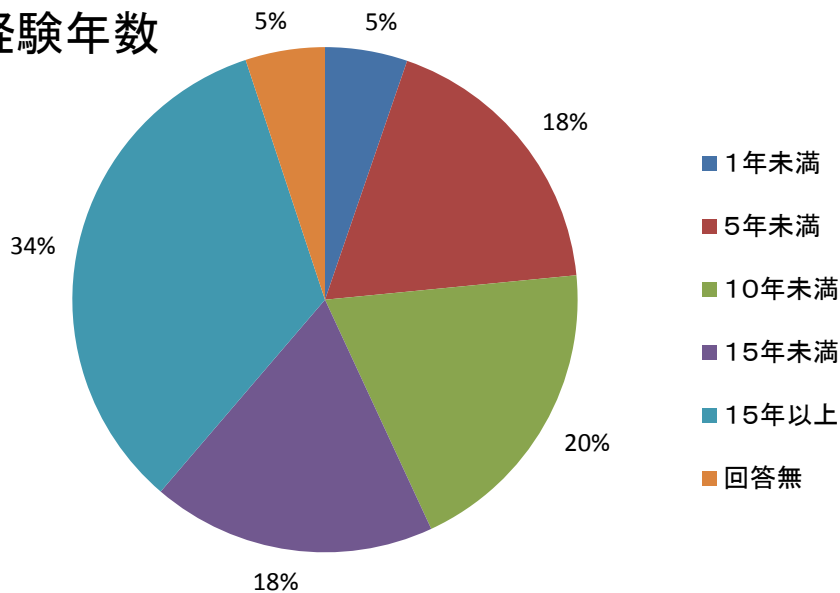
所属機関



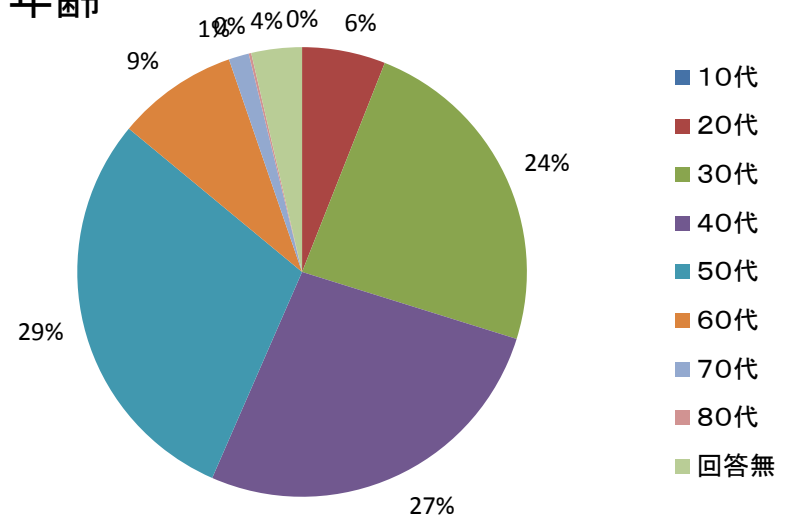
資格



経験年数



年齢



タスク②

在宅医療従事者の負担軽減の支援

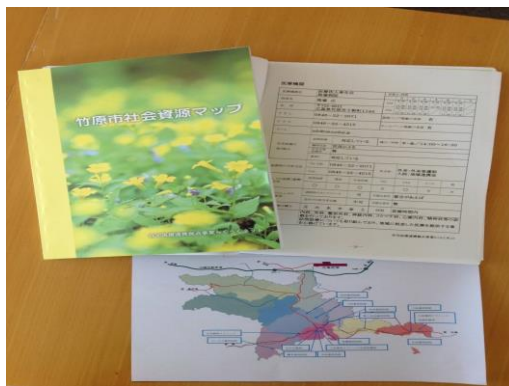
◇ICTによる情報共有

- ・情報共有システム「エイル」導入を実施するも、地域における本格運用まで至っていない。
- ・端末等による不具合の発生が重なりシステムが有効に使用できず具体的なデータ収集ができなかった。
- ・情報共有システム「カナミクス」へ変更しデータ収集中。
- ・地域における情報共有のニーズは高いが、個人情報に関する抵抗感は強い。

タスク③

効率的な医療提供のための多職種連携

- ・社会資源マップ配布(冊子化)。
- ・顔写真付連絡先一覧表配布(介護保険事業所、病院連携室)
- ・社会資源マップ簡易版配布。
- ・病院、施設相談員部会開催
(在宅医療・介護の後方支援ネットワーク構築)
- ・訪問看護ステーション部会開催。
- ・民生委員理事会出席。
- ・事業所への訪問活動。



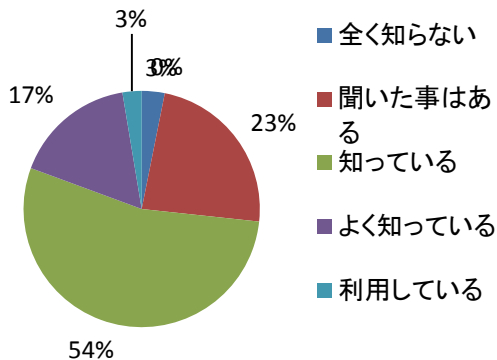
タスク④

在宅医療に関する地域住民への普及啓発

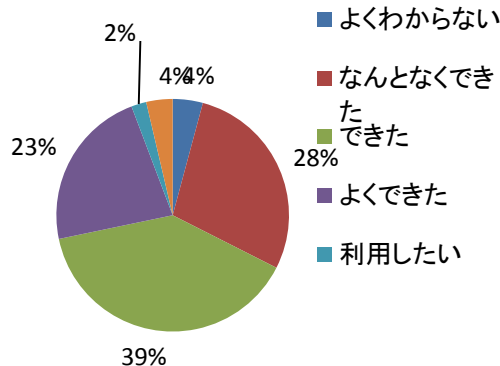
- ・公民館での在宅医療啓発講座開催
- ・ざいたく医療推進フォーラム開催。

(地域の社会資源発信の為に、地域内の機関より講師及びパネリスト選出)

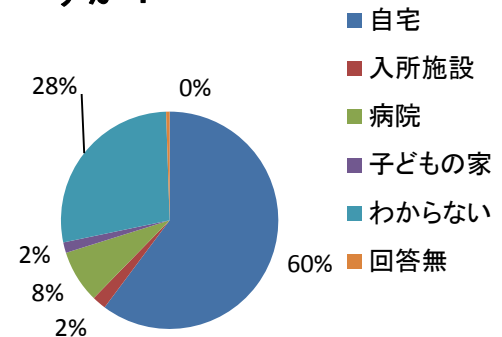
在宅医療についてご存知ですか？



在宅医療のイメージができましたか？



人生の最期はどこで迎えたいですか？



タスク⑤在宅医療に従事する人材育成

- 都道府県リーダー研修受講
- 広島県地域リーダー研修開催
(ファシリテーターとして参加)

平成25年2月17日(日)福山会場

平成25年2月24日(日)広島会場

タスク⑤在宅医療に従事する人材育成

当拠点は、地域内での医療と介護の顔の見える連携の促進を中心に事業展開を行い、多職種連携勉強会（6回開催）を重点的に開催した。

各専門職からは、顔は見えているといった声や顔が見えてきたという声がみられたが、地域内では一方通行の顔の見える連携が行われており、相互理解に基づく連携には十分とはいえない。しかし、徐々にお互いの職域や業務内容の理解が進んできており、アンケート結果や勉強会前後の時間での交流等から医療と介護、各専門職間の双方の歩み寄りが感じられる。

大きな成果としては、何となく感じていた多職種連携の必要性を具体的に地域内で感じる事ができ、医師会を中心とした組織的な活動へ地域全体で進んでいく道筋がついたことである。